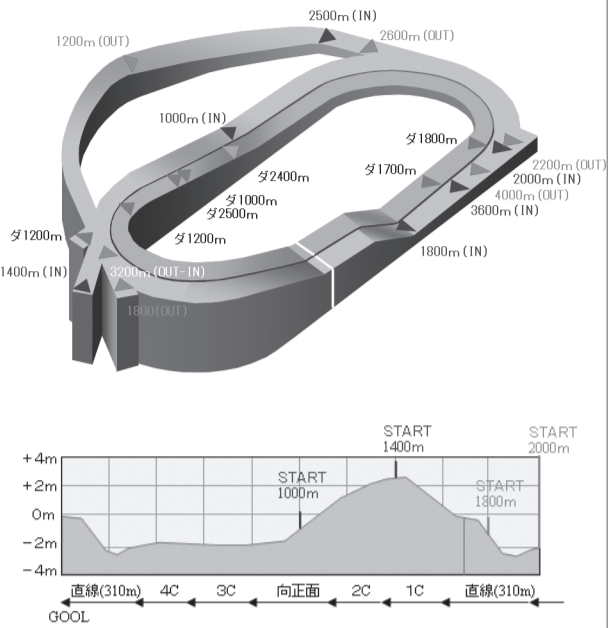


3D COURSE DATA NAKAYAMA



コースと馬場傾向から見た

馬券になる馬、ならない馬

text by 川島たかゆき

3歳クラシックレースには古馬にはないドラマがあるので大好きです。西暦を見ればダービーの勝ち馬を思い出してしまうというのは一種の競馬中毒でしょうか(笑)



COURSE & TRACK

コースの特徴

深い内回りコース

皐月賞が行われる中山芝2000mコースは内回りコースで開催される。内回りコースは縦長の円を一周回ってくるシンプルなコースだが、実際にはコースにはかなりのアップダウンがあり、実は相当奥深いコースでもある。コース形状を理解していないと馬券にならないような馬を買わされてしまうことも。そのためにも、皐月賞が行われるコースの特徴はしっかりと把握しておくことが勝ち組の仲間入りへの近道だ。

平均ペース濃厚

4コーナーの出口付近の直線からスタートすると、150m先に中山名物の心臓破りの坂がある。ここは約140mの間に高さ2.3mを登ると非常に急な上り坂なので、この部分でペースを上げて逃げる馬はまずいない。ではスローペースになるのか?と云われると実はそうでもない。過去10年の皐月賞を見てみると、平均ペースが8レース、スローペースはわずかに2回しかないのだ。小回りコースだけに1コーナーまでの位置取りが非常に大切だとジョッキーも考えているため、逃げ馬が飛ばさなくても、他の馬が1コーナーまではペースを落とさずに行くケースが多いからだ。そのため、道中は13秒台に落ちることは滅多になく、12秒台の平均ペースでの競馬が濃厚となっている。

先行馬有利

1コーナーを回るまでに2.7mの上り坂があるが、この時点では隊列がほぼ決まっているため、ジョッキーたちの動きは少ない。そして2コーナーから向こう正面の真ん中く

らいまで高さ4.1mの下り坂となっているが、向こう正面で動くとき最後までスタミナがもたないため、この下り坂でペースが上がることは考えにくい。実際に道中は12秒台半ばの平均ペースで進むレースがほとんどだ。しかし、道中ラップは12秒台の平均ラップで進んでいるように見えても、実際は2コーナーから向こう正面の真ん中までは下り坂なので、ペースを作れる逃げ先行馬にとっては、ここで脚を使わずに楽なペースで競馬が進められる。この下り坂で先行馬が息を入れることが出来る事で前残り起きやすいのはこのコースの大きな特徴だ。

苦しい外差し馬

先行勢が3コーナーまで楽に行けると、直線が310mしかない中山芝コースでは、早めに抜け出して粘りこみを図る先行馬が残り600mからペースを上げて、後続を突き放そうとするレースが多くなる。4コーナーでは先行馬が横に広がってなだれ込むシーンもしばしば。そうなる苦しいのは後方から馬群の外を回って差してくる差し、追い込み馬。ただでさえ先行馬がペースを上げて苦しくなっているところに、馬場の外側を回らされて距離ロスを強いられるようになっては、よほど息の長い末脚を使えるタイプでない限り、最後の直線で伸びきれないことが多いからだ。

好走馬の傾向は2通り

以上のことから考えて、皐月賞が行われる中山芝2000mでは逃げ馬の後ろに控えて、4コーナーで先頭に踊り出るような先行馬が有利。残り600mからペースを上げて、中山名物心臓破りの坂でも大きくばてない、息の長い末脚を使える馬が勝利にもっとも近い。次に狙えるのは馬群の中でじっと息を潜めて距離ロスを減らしつつ、直線では馬群の間を割って出てこられるような勝負根性の高い馬、器用さを持った差し馬。この2つのパターンだけで、連対馬の7割を占めているだけに、極端な脚質の馬は狙いを下げたいコースだ。

馬場の傾向

馬場の傾向把握は重要

先週の芝レースでの連対馬の脚質から、好走しやすいタイプを見つければ、レースの展開をイメージする上で非常に重要なファクターである。コースの形状は例年変わらなくとも、芝の状態が変わると、例年の傾向とは異なる結果が出てしまうことが良く起きてしまうので、毎週変化する馬場傾向を把握することは、安定した的中への大きな近道といえる。

イメージとしては福島競馬場のように小回

りのため先行馬有利のコースでも、開催が進み、馬場が使い込まれてくると、内ラチ沿いの芝がはげてポロポロになってしまったため、内ラチ沿いを通る先行馬は余計にスタミナを消費することになるので、脚が止まってしまいい、馬場の外から差ししてくる差し馬有利の傾向へと変化していくことを思い浮かべると良い。

Bコースで差し有利か

先週末での中山芝コースの傾向を見ると、良馬場ではかなり早い時計も出ていた。しかも一時のような内ラチを通る逃げ先行馬圧倒的有利の傾向とは異なり、外差しも決まる馬場となっていた。ここ2年は逃げ馬の活躍が目立っていたが、昨年は完全にインコース有利の恩恵があったことを考えると、展開に恵まれない限りは逃げには向いては厳しい馬場状態と考えてよいだろう。過去の傾向からは先行、差しともに互角の成績となっている中山芝2000mだが、今年は差し有利の傾向が強そうだと判断している。

有力馬分析

ロジユニヴァース

4戦4勝とパーフェクトな成績で最初の1冠目にチャレンジ。前走は逃げていたが、本来は中団待機からの末脚勝負がこの馬の競馬。力の要る洋芝も得意な上、時計の早い馬場になっても、札幌2歳Sでは過去10年間で最速の勝ち時計で勝利しているように時計勝負も問題ない。折り合い面での心配もないので、道中は中団待機から前にいるリーチザクラウンを目標に競馬が出来るといって展開面でも恩恵がある。凡走は考えにくいタイプで皐月賞の最有力候補。

アンライバルド

スプリングSではスローペースで先行馬有利の流れを抜群の瞬発力でねじ伏せた。当時逃げ先行馬有利の馬場だったので、差す競馬での勝利はより価値が高まるものだった。4コーナーで馬群の外を回っても今の馬場ならば届く可能性はあるが、馬群の中から競馬が出来れば、ロジユニヴァースを脅かす存在になっても不思議はない。勝負強い岩田康誠騎手というのも強調点。

リーチザクラウン

未勝利戦の勝利以降すべて逃げての競馬。窮屈な競馬をさせたくないという武勇騎手の考えに沿っての戦法だが、中山芝2000mを平均ペースで逃げ切るためには、相当の長い末脚を使う必要がある。3歳のこの時期にそれだけの心肺能力を持つ馬がいるのか?という懸念がある上、後ろからロジユニヴァ

ースにマークされる立場となるため、見た目以上のプレッシャーを受けることになると思われる。3強と言われる中では、展開、馬場傾向ともにマイナス材料が大きいと考えている。

ベストメンバー

5戦して3勝の成績だが、負けたのはいずれも直線が平坦な京都コースで、ゴール前で急坂のある阪神、中山コースでは全勝している。外差し有利の傾向を考えると平均ペースで流れる中山芝2000mならば直線で大外から伸びてくるシーンもありそう。

トライアンフマーチ

父スベシャルウィーク、母キョウエイマーチという超良血馬。使われてようやく体の使い方がわかってきた様子。とにかく馬体は一級品で、首周りも太く、力強いフットワークをする馬。狭い馬群を割って伸びてきた若葉Sでもわかるように勝負根性も高い。一般の評価以上に走る馬だと見ている。

アントニオパローズ

出走を予定していた弥生賞では右肩八行で出走回避。調教を見る限りではまだまだ動きが重く、首が高いところは気になるところ。追って味がないタイプだけに、決め手が生きると今の中山芝コースは向かない可能性が高い。

結論

- ◎ロジユニヴァース
- アンライバルド
- ▲ベストメンバー
- △トライアンフマーチ
- ×ナカヤマフェスタ
- ☆リーチザクラウン

道中はリーチザクラウンという格好の目標がいてレースが運びやすいロジユニヴァースが本命。折り合い面での心配もなく、力の要る洋芝でも時計の早い決着にも対応できるタイプなので、凡走は考えにくい馬なので連軸として最適。相手は外差しが生きている馬場傾向を重視してアンライバルド、ベストメンバーを上位に。ここきてグングン力を付けている良血馬トライアンフマーチの一発、追い切りの動きが良かったナカヤマフェスタも侮れない一頭だ。3強の一角リーチザクラウンは目標にされる展開では苦しく、今の外差しが決まる馬場を考えると勝ちきるまでのイメージは湧かないので押さえ評価とする。

BR査定表

サラブレッドは血と騎手で走る!

BLOOD×RIDER×DATA



text by ワックスムーン

これで貴方もデータゲイザー

知って得する「ロジニヴァース」

ターナーから穴馬の発掘に心血を注ぎ、回収率向上に役立ってデータゲイザーを掲載したいという信念のもと、データゲイザー

枠番	馬番	馬名	騎手	通常ベース				重賞ベース			
				血統		騎手		血統		騎手	
				複回数	複勝率	複回数	複勝率	複回数	複勝率	複回数	複勝率
①	1	○ロジニヴァース	▲横山典	××	◎	×	◎	××	◎	××	▲
	2	○リクエストソング	▲後藤	母父◎	母父○	○	○	母父◎	母父△	××	▲
②	3	○サトノロマネ	×北村宏	◎	◎	△	△	××	○	△	××
	4	◎トライアンフマーチ	××武幸	母父◎	母父◎	××	××	母父◎	母父◎	××	××
③	5	○ミッキーペトラ	◎田中勝	×	△	◎	○	母父◎	母父◎	◎	◎
	6	◎ベストメンバー	◎四位	△	○	◎	◎	◎	○	◎	○
④	7	▲ナカヤマフェスタ	×蛭名	▲	○	◎	○	△	◎	××	××
	8	○メイショウドンタク	×藤田	△	○	○	○	◎	○	××	××
⑤	9	××イグゼキュティブ	◎松岡	××	××	◎	◎	××	×	◎	◎
	10	××ゴールデンチケット	◎川田	母父○	母父▲	◎	○	母父××	母父××	◎	◎
⑥	11	◎アーリーロブスト	◎福永	◎	○	○	◎	◎	○	○	◎
	12	?フィフスペトル	△安藤勝	?	?	△	○	?	?	△	△
⑦	13	××モエレエキスパート	?三浦	?	?	××	△	?	?	××	××
	14	○アントニオバローズ	?角田	△	○	?	?	◎	○	?	?
⑧	15	×セイウンワンダー	××内田博	母父○	母父▲	××	△	母父××	母父××	××	××
	16	××アンライバルド	××岩田	母父××	○	×	×	母父××	母父××	××	××
⑧	17	××シェーンヴァルト	?北村友	××	△	?	?	××	×	?	?
	18	×リーチザクラウン	○武豊	△	△	△	◎	××	××	××	◎

【BR (ブラッドライダー) 査定表とは?】

馬券に直結する血統 (Blood) と騎手 (Rider) をピックアップするものです。
注) 重賞ベースに限り、母父査定も可。その場合、母父と記載。

【印の説明】

下記の区分を目安に、騎手と血統の適性を判断。その結果を踏まえ、査定者の最終評価を馬名、騎手名に表示。

- ◎ 複回収値が 100 円 / 複勝率 35%以上
- 複回収値が 90 円台 / 複勝率 30%以上 35%未満
- ▲ 複回収値が 80 円台 / 複勝率 25%以上 30%未満
- △ 複回収値が 70 円台 / 複勝率 20%以上 25%未満
- × 複回収値が 60 円台 / 複勝率 15%以上 20%未満
- ×× 複回収値が 60 円未満 / 複勝率 15%未満
- ? データ不足 (騎乗機会 5 回以下。重賞の場合は 2 回以下)
- * 小数点は全て切り上げ。

→プラスデータ →マイナスデータ (掲載データは、特に断りのない場合は、全て 03 年 1 月以降で集計) (date (データ) を gaze (凝視) する人という意味で datagezer)

【抽出条件】

通常: 03 年 1 月～レース 2 週間前までの同コース、同距離の 500 万以下についての成績。
重賞: 03 年 1 月以降の類似重賞の成績 (今回は中山 2000m 重賞で査定)。

●リーチザクラウン(武豊)

本馬はきさらぎ賞で 2 着に▲0.6 差をつける圧勝を演じているが、98 年以降、芝 1600～2000 の OP クラスのレースで 2 着馬に 0.3 差以上の着差で勝利経験があった馬は、[6・4・5・15] (除く競争中止馬) で複勝率 50% と好走率が高い。また、鞍上の武豊騎手は皐月賞で [3・0・2・10] と今回出走騎手では最多勝利を記録している。
本馬は前走のきさらぎ賞を圧勝しているが、91 年以降、きさらぎ賞から皐月賞に直行した馬は 4 頭いるが、7 着、8 着、18 着、14 着と全て大敗を喫している。なお、99 年以降、前走で逃げ去った馬は [0・0・1・16]。04 年 3 着のメイショウボーラー以外は敗れ去っている。

●フィフスペトル(安藤勝)

本馬は年明け緒戦で臨んだスプリング S で見事 2 着に好走しているが、87 年以降、年明け緒戦にトライアルレース (弥生賞、スプリング S、若葉 S) を使い、優先出走権を得た馬は、皐月賞で [4・4・3・10] 複勝率 53% と好走率が高い。前々走で連対していた馬に限れば [4・4・3・6] 複勝率は 65% まで上昇する。
本馬は 1200 重賞勝ち馬だが、96 年以降、1200 重賞の勝ち馬は、皐月賞で [0・0・1・6] と、マイル重賞を勝利し、弥生賞でも 3 着だったメイショウボーラー以外は、馬券圏外に敗れ去っている。また、鞍上の安藤騎手は、皐月賞で [0・0・1・6] と連対歴はない。

●ベストメンバー (四位)

本馬は急坂 (中山 & 阪神) コースで計 3 勝をマークしているが、98 年以降、急坂コースで 2 勝以上の勝ち鞍があり、かつ OP 以上のレースで勝ち鞍があった馬は、皐月賞で [5・2・7・15] と複勝率 48% と好走率が高い。今年の出走メンバーで、この実績があるのは、ロジニヴァース、アーリーロブスト、セイウンワンダーと本馬だけである。また、鞍上の四位騎手は、皐月賞で [1・1・1・5] と複勝率 38%、複回収値 168 円を誇る。
本馬はきさらぎ賞で 0.9 差の敗戦歴があるが、98 年以降、良馬場の 500 万条件以上のレースで 0.9 差以上の敗戦歴があった馬で、皐月賞で 3 着以内の成績を修めた馬は 4 頭のみである (03 年 3 着エシチャンプ、02 年 1 着ノーリズ、2 着タイガーカフェ、99 年 2 着オースミブライト)。

●アーリーロブスト(福永)

本馬は京成杯勝ち馬だが、98 年以降、本馬と同様に中山芝 2000m の OP 以上のレースの勝利経験があった馬は、[4・4・4・8] と複勝率 60% を誇る。また、鞍上の福永騎手は、皐月賞で [0・1・2・5] と複勝率 38% を誇る。
本馬は、弥生賞で 0.7 差の 6 着に敗れているが、弥生賞で 0.5 差以上の敗退をしていた馬は、皐月賞で [0・1・1・16] と巻き返し率は僅か 11% である。

●アントニオバローズ(角田)

本馬はマイル重賞の勝ち馬でキャリア連対率 100% だが、98 年以降、マイル重賞連対歴があり、キャリア連対率 100% 馬は、皐月賞で [0・3・2・1] と極めて安定した成績を修めており、馬券圏外に消えたのは、皐月賞が 3 戦目だったビッグプラネットのみである。また鞍上の角田騎手は皐月賞で [0・0・3・2] と複勝率 60% を誇る。
本馬は 1 月に行われたシンザン記念勝利をステップに皐月賞に挑むが、88 年以降、本馬のように中 10 週以上の間隔で出走した馬は、[0・0・2・8] と連対歴はない。

●ミッキーペトラ(田中勝)

本馬は、弥生賞で 0.4 差の 2 着と好走しているが、98 年以降、弥生賞で 0.4 差だった馬は [1・1・0・2] と複勝率 50% であり、連対した 2 頭は 7 番人気 1 着キャプテントゥーレ、8 番人気 2 着タイガーカフェと低評価を覆している。また、シンボリクリスエス産駒は、09 年の芝重賞で [2・3・2・11] と複勝率 39% と勢いがある血統である。
本馬は未勝利戦後の弥生賞で権利を取得したが、98 年以降、新馬・未勝利戦直後にトライアルレースで優先出走権を取得した馬は、98 年以降、皐月賞で、9 着、13 着、16 着と惨敗を喫している。

●ロジニヴァース(横山典)

98 年以降、弥生賞馬は、皐月賞で [2・1・4・3] と複勝率 70% だが、本馬同様、中央レースで無敗の馬に限れば、[2・1・0・0] と連対 100% である。
本馬は弥生賞で逃げ切り勝ちをしているが、87 年以降、弥生賞が逃げ切り勝ちだった馬は 2 頭出走して共に 8 着に敗れ去っている。また、札幌 2 歳 S が 1800m で施行された 97 年以降の勝ち馬は、皐月賞で [0・1・1・6] と未勝利である。なお、99 年以降、前走で逃げ去った馬は [0・0・1・16]。04 年 3 着のメイショウボーラー以外は敗れ去っている。鞍上の横山典騎手は皐月賞で [1・0・2・14] と複勝率は僅か 18% である。

●アンライバルド(岩田)

86 年以降、本馬同様にスプリング S 勝ち馬かつキャリア複勝率 100% 馬は、皐月賞で [2・1・2・2] だが、本馬のようにスプリング S 以外に OP クラスのレースで勝ち鞍があった馬に限れば、[2・1・2・0] と複勝率 100% の軸馬と化す。
本馬はスプリング S で 4 角 7 番手から差し切り勝ちをしているが、86 年以降、スプリング S 勝ち馬で 4 角位置取りが 7 番手以下だった馬は、皐月賞で [0・0・2・4] と連対歴はなく、突き抜ける可能性は低いか。

●セイウンワンダー (内田博)

本馬は 3 連勝経験馬だが、98 年以降、芝レースで 3 連勝経験馬は、皐月賞で [4・4・6・16] と複勝率 47% と好走率が高い。うち重賞勝ち馬に限れば [4・4・5・10] 複勝率 57% まで上昇する。
本馬は朝日杯勝ち馬だが、86 年以降、朝日杯勝ち馬は皐月賞で [2・1・2・7] だが、前走で 5 着以下の馬に限れば [0・0・0・7] と全て馬券圏外に消えている。

●リクエストソング(後藤)

本馬の母父は中山コースで行われた G 1 レースで母父トニービン馬は、[4・3・2・14] と複勝率 39%、複回収値 232 円と激走率が高い。皐月賞に限っても [2・1・0・7] と複勝率 30%、複回収値 178 円である。
本馬は、スプリング S で 0.5 差の 7 着に敗れているが、スプリング S で 0.5 差以上の敗退をしていた馬は、皐月賞で [0・2・0・30] と複勝率 0.06% である。連対した 2 頭は共に京成杯勝ちの実績があった。また、鞍上の後藤騎手は、皐月賞で [0・0・0・10] と馬券歴はない。

●ナカヤマフェスタ(蛭名)

本馬は東スポ杯 2 歳 S 勝ち、京成杯 2 着と芝 1800 以上重賞で 2 度の連対歴があるが、98 年以降、芝 1800 以上の重賞で 2 度以上の馬券歴があった馬は、皐月賞で、[3・5・5・12] と複勝率 52% と好走率がある。
本馬は 1 月に行われた京成杯 2 着をステップに皐月賞に挑むが、88 年以降、本馬のように中 10 週以上の間隔で出走した馬は、[0・0・2・8] と連対歴はない。また本馬は東スポ杯 2 歳 S の勝ち馬だが、98 年以降、府中 1800m 重賞を勝利していた馬は、皐月賞で [0・0・2・8] と連対歴はない。